

「恩送り」

校長 田邊 泰

誰かに、助けてもらったときに、感謝の気持ちを、助けてくれた人に返すのではなくて、他の人に渡していくことがあります。それを、「恩送り」というのだそうです。

私たちは、家庭、学校、地域など、様々な場で育てられると同時に、恩恵を受けています。この恩恵は、親から子へ、先輩から後輩へ、姉兄から妹弟へ、おば・おじから姪・甥へなど、「恩という名のバトン」を次々に渡していきます。

さて、私たちは、「前の走者」から渡されたバトンを、しっかりと育てていかなければなりません。そして、バトンを渡してくださった方の思いを受け継ぎ、育み、しっかりとした形になったバトンを、「次の走者」に渡す、これも「恩送り」の一種ではないかと思っています。

1年生は館岩自然の教室において、2年生は奥日光において、宿泊学習を実施します。宿泊学習は人を成長させます。4月には先輩と呼ばれるようになる1年生の皆さんと、最高学年になる2年生の皆さんは、先輩たちから授けられた恩の意味が分かってくると思います。そのバトンを自分のものとして、後輩へ伝えられるようにしてください。3年生は、いよいよ岸中を巣立つときが迫ってきました。伝統ある岸中学校で培ったバトンの大きさと質の高さ（岸中QUALITY）を実感したところで、後輩たちに「恩送り」をお願いします。

卒業生の方々や先輩たちの思いや願い、家族の皆さんや先生方が愛情をもって教えてくださったことが、今の自分をつくり上げてきたことに感謝し、新たなスタートへのエネルギーとしてください。

4月はもうそこまで来ています。

